

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・取引先からの注文が回復傾向にあり、販売量は3か月前と比べるとほぼ2倍になっている。ただ、新型コロナウイルス発生以前の水準とはまだ大きな差がある。
	○	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・4月前半は来客数、売上共に回復してきていたが、後半に入り、東京都や大阪府などで緊急事態宣言が発令されたことから、来客数、売上の伸びがみられなくなった。ただ、時計、宝飾品、特選品については、比較的若い世代の客を中心に動きが良い。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が増加傾向にある。4都府県での緊急事態宣言の影響を受けて直近の伸びは鈍化しているものの、気温の上昇に伴って人出は確実に増えてくるため、月全体の来客数、買上客数は改善することになる。
	○	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・スーツの需要は落ちたままだが、それに代わってジャケット関連の販売量が増えてきている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍のなか、業界ごとの良しあしはあるが、車業界では需要期を迎えていること、各メーカーによる新型車効果がみられることなどから、景気はやや良くなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・北海道の場合、春先需要の時期であり、売れ筋の新車種が発売されたこともあり、来場者が増加している。全体の販売台数も増加しており、客の購買意欲が増していることがうかがえる。
	○	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・現状、来客数が増加しており、売上も前年を上回っている。特にタイヤやカーナビゲーションの販売量が増加している。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・感染拡大傾向にあるとはいえ、季節的に外出しやすいシーズンとなり、新型コロナウイルス対策を整えたうえで余暇を楽しもうとする客が増えてきている。
	○	美容室（経営者）	販売量の動き	・4月の売上は1～3月よりも5～10%増加している。前年と比べても5～10%増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新年度に入ったが、依然として低調な状況が続いている。特に若い世代の来街者が例年と比べて著しく少ない。これは新型コロナウイルス感染回避に向けて、中心部を訪れない期間が長くなっていることで、来街意欲が減退しているためとみられる。また、区域内の駐車場、バス停の利用者は月を重ねるごとに少なくなっている。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の収穫が順調であることから、好調をキープしている。前年のりんごが豊作だったこともプラスとなっている。
	□	一般小売店[土産]（経営者）	販売量の動き	・売上は一昨年より18.1%にとどまっている。社員35人全てを守るため、売れる不動産は売っているが、新たな借金が4億円に達するなど、厳しい状況が続いている。
	□	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、緊急事態宣言が発出されるなど、新型コロナウイルスの影響が続いており、景気は厳しいまま変わらない。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・春休み期間中は学校行事関連商材など、どうしても必要となる商材が動いたため、売上のトレンドも数か月前と比べると上向いたが、春休み明け以降は停滞気味である。特にファッション衣料や化粧品の動きが悪く、一昨年と比較すると売上はまだまだ落ち込んでいる。
□	スーパー（役員）	単価の動き	・この数か月、売上に大きな変化はみられない。前年と比べると、来客数がやや減少しているが、客単価が上昇していることから、どうにか前年並みの売上を確保できている。ただ、ここ最近の流れから、客単価の上昇幅が縮小しており、来客数の微減傾向が続くことで、今後、売上が減少する懸念がある。	

□	スーパー（役員）	販売量の動き	・前年は小中学校の休校により内食での昼食需要が一気に増大したが、今年は内食が定着していることもあり、前年ほどの伸びがみられない。
□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・工事、漁業、農業の動向が前年と同じか、それ以上になっているというプラス面と、観光が下向き傾向になっているというマイナス面があることから、小売業の販売状況は3か月前とほぼ同じような状況にある。
□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前月とほとんど変わらないものの、前年と比べるとやや減少している。目的買いの客がほとんどである。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今の状況から、景気が上向きような傾向はみられない。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量の変化が特にみられない。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今のところ、当地では新型コロナウイルス感染者数の少ない状態が続いていることから、ゴールデンウィーク期間中にある程度の観光客が訪れるとみられ、それに伴って売上も多少増えることになる。ただし、その2週間後に感染者数が増えることになれば、景気はどんどん悪くなる。北海道全体での感染者数が増えていることもあり、今後の心配である。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・これまでと同様に来客数の少ない状態が続いている。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・客の動向が変わっておらず、来客数の減少傾向が続いている。
□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・依然として海外からの予約が皆無である。国内の団体旅行も不振が続いている。一方、コンサートやイベントに伴う宿泊客は回復傾向にある。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・北海道独自の観光支援策である「新しい旅のスタイル」事業が始まったが、対象が圏域内での利用に限定されていること、実施時期が限定されていること、同居者との旅行に限定されていることなどから需要は少ない。道外への旅行についても、予約が入ったとしても航空便の運休に伴い取消しとなることが多く、3か月前と状況は変わらない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・相変わらずレジャー控えの動きがみられる。さらに、4都府県で緊急事態宣言が発出されたことで良化の見通しも立たない。当地域の新型コロナウイルス感染者数は減っているものの、全国的な状況が変わらない限り景気が上向きことはない。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・コロナ禍が続くなか、現在の状況は3か月前と変わっていない。前年と比較すれば若干良くなっているが、先行きについては見通せない状況にある。
□	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているものの、道央圏の大規模商業施設や専門店では、一部の地方店舗を除き、来客数に変化がみられないことから、景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の減少に伴って、来客数が回復する傾向がみられる。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で分譲マンションのモデルルームに訪れることができない客が多くみられる。オンラインでの商談を用いたとしても、購入するかどうかの判断には長い時間が掛かるようになっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が増加しているとの報道が過熱するごとに商店街の来街者が大幅に減っている。目的買い以外の客の来客数が極端に減っている。
▲	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・年明けから少しずつ回復傾向がみられていたものの、4月に入り、新型コロナウイルスの感染状況が全国的に拡大傾向にあることを受けて、来客数が大きく落ち込んでいる。特に年配客の動きが悪くなった。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数と同様に、販売量も悪くなってきている。主要産業である漁業の落ち込みが影響しているのか、所得の減少が影響しているのか、徐々に悪い流れになってきている。

▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、出荷量も減ってきている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・4月の売上は前年を超えそうだが、例年の30%台にとどまりそうなことから、景気はやや悪い。前半は良かったが、4都府県を対象とした緊急事態宣言の発出が影響したのか、4週目から落ち込んだ。夜は客がほとんど入らない。平日のランチ客は低単価メニューの注文が多く、売上貢献度が低い。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・2～3月の冬季観光は新規路線就航の影響などもあり、多少の回復傾向がみられていたが、4月に入ってから、首都圏、関西圏での新型コロナウイルス感染拡大に伴って航空便の減便が進んでいることから、観光、ビジネス共に利用客の伸びがみられなくなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	それ以外	・Go To Travelキャンペーンや北海道による「新しい旅のスタイル」などの観光需要喚起策がストップするなか、4都府県で緊急事態宣言が発出されたことが追い打ちを掛けている。5月上旬までの旅行が見合わせられるようになり、苦戦している。それ以降の旅行についても、緊急事態宣言が解除されるまで、申込みを一旦控えるようになることが懸念される。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・夜間の人出が減少傾向にあることから、景気はやや悪くなっている。特に飲食店における営業時間の短縮要請が発表された時には、当然のことながら、利用客が激減した。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・首都圏や関西圏などで新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、当地においてもクラスターが発生したことで、客の外出意欲が低下している。行動の自粛が進んでいることで、販売量が落ち込んでおり、苦戦している。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・不要不急の外出自粛要請などが出たことにより、通常時と比べて来客数が25%程度減っている。当店は住宅地という立地条件のため、客が自粛要請をしっかりと守る傾向が顕著にみられ、大きな影響が生じている。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響が続いている。輸送量は前年と比較しても微減となっており、回復が困難な状況となっている。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の第4波が生じているなか、非常にムードが悪くなっている。木材建材を中心に資材価格の高騰がみられ始めていることもマイナスである。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・4都府県で緊急事態宣言が発出されたなか、当地においても4月27日から飲食店などでの営業時間短縮要請や市民の行動自粛要請が出された。長い冬の明けたゴールデンウィークでの復活を目指していた事業者の苦悩は計りしれない。業績への影響も多大だが、1年を超える自粛などの影響が経営者の精神面にも大きく影を落とし始めている。未来が見通せなくなり、廃業を考えている店も多くみられる。このままでは借金漬けになった零細企業が壊滅していくことになる。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が発出されてから、当地への観光客が徐々に減っている。特に4都府県での緊急事態宣言が発出されてからは、若い世代の旅行者が多少みられる程度であり、グループ旅行などの団体客や年配の旅行者が極端に減っている。
×	百貨店（役員）	来客数の動き	・買上客数が減少している。
×	スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大から1年が経過し、前年の巣籠り需要の反動がみられる。
×	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・マスクや消毒関連商材の欠品がなくなると同時に、需要も大きく落ち込んでいる。来客数も大幅に減少している。

	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・4月から営業を再開しているが、新型コロナウイルスの影響が大きく、客が全く来店しなくなっている。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの長期停止、全国各地での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出、政府による人流抑制施策などが重層的に実施されていることで、宿泊客が大きく減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・4月の当社の売上は前年との比較ではプラス20%であったが、新型コロナウイルス禍前の一昨年との比較ではマイナス30%であった。前年は全国的に緊急事態宣言が発出されたことで、昼夜共に人の動きがなかったが、今年は前年ほどの落ち込みとはなっていない。ただ、首都圏などで緊急事態宣言が発出されてからは、特に夜の人出が少なくなっており、それに伴いタクシーの利用も減っている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・新年度に関連する行事、イベントがごとごとく中止となり、人の移動が激減している。夜間の人出も一向に回復してこない。一部の人出も購買力がさほど高くはない若年層ばかりである。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・当地区において生じていた新型コロナウイルスのクラスターは4月上旬には終息したが、東京都、大阪府、兵庫県などで緊急事態宣言が発出された影響で外出を自粛する動きが強まっている。売上も前年ほどの落ち込みではないが、減少している。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限が緩和されたことで、景気はやや良くなっている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越し工事と4月着工の新規受注工事、新年度前半の工事量が当初計画以上に確保できている。現場技術職員の配置も完了している。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、飲料、農産品、建材関連、一般雑貨、一般消費財の荷動きがみられ始めているなど、経済活動が少しずつ動き始めている。ただ、倉庫保管の回転率はまだまだ低調である。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響を受けて、販売量が減少したまま上向いてこない。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・周辺の同業者や取引先の様子をみると、受注量、受注価格、今後の案件数のいずれも例年並みとなっている。当社も例年並みの業績水準で推移している。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・北海道による集中対策期間の終了に伴い人の動きが活発化してきていたが、その矢先に新型コロナウイルスの感染が再拡大してきたことで、景気持ち直しの重荷となっている。このため、道内景気は3か月前と比べて変わらない状況にある。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・コロナ慣れもあり、案件が動き出すようにみえていたが、実際の取引量は前年と横ばい又は減少で推移している。長期戦を見据えて企業の姿勢が慎重になっている。
	□	その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・民間のプロジェクト工事、北海道新幹線の延伸工事、再生可能エネルギーに関連した工事などが比較的堅調に推移していることから、景気は変わらない。
	□	その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・依然として前年並みの売上で推移している。
	□	その他サービス業【建設機械リース】（支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で観光関係では厳しい状況が続いている。その他の業種では大きな変化がみられない。
	□	その他非製造業【鋼材卸売】（従業員）	受注量や販売量の動き	・先行きの見通しから、年当初目標の達成には難しさがあるが、何とか受注量を増やしながら大幅ダウンを回避している状況にある。今のところ、景気がすぐに悪くなるような要素は少ないが、今後の新型コロナウイルスの動向次第の面がある。

	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの影響がいまだに続いている。鉄鋼、銅管、アルミ材などの原材料価格が大幅に値上がりしていることもマイナスである。
	▲	司法書士	取引先の様子	・依然として新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、東京都などを始め複数の都府県で緊急事態宣言が発出され、人の行動自粛や飲食店の営業時間短縮などが要請されていることから、景気は悪化している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・当地域の建築業、不動産業などは、前年と比較して取引量が減少している。新型コロナウイルスの影響で、取引が中止、延期となるケースも多く、回復が見込めない状況にある。
	▲	その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	取引先の様子	・入札に参加する企業が増えており、それに伴って落札価格も低下傾向にある。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・4月の販売量は前年比マイナス42%となっている。3か月前の1月の販売量は前年比マイナス19%であったため、景気は悪くなっている。
	×	建設業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・受注価格が低下傾向にある。昨今の相場感と比べて2割程度落ち込んでいる。
雇用 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・前年12月に当地で起きた大規模クラスターが完全に収束したことで最悪期は脱している。消費マインドや行動マインドも回復傾向にあり、それに伴って当地の経済水準は新型コロナウイルス発生以前の7～8割程度まで回復している。建設業、運輸業が引き続き好調なほか、飲食店、小売店も前年と比べると客が戻ってきている。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・3月の有効求人倍率は1.25倍と前年を0.12ポイント上回っている。新規求人数が前年を上回っていることから、景気はやや良くなっている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・観光業界は相変わらず厳しい状況が続いているが、それ以外の業界では営業活動が回復傾向にある。IT業界では在宅ワークを見据え、システム営業や開発の求人が増えており、一般企業も営業職の求人が増加傾向にある。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・4都府県での緊急事態宣言の発出、札幌市での不要不急の行動自粛要請などの影響が当地のような地方都市においても生じている。消費マインドにも悪影響が生じており、求人数は足踏み状態となっている。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	採用者数の動き	・新型コロナウイルス変異株の感染者が増えていることで、再度の外出自粛要請などが発出されているが、ワクチンの普及が進みつつあることから、前年のような暗さはみられない。前年の求人数は例年の半分まで落ち込んだが、今年は例年の8割程度で推移している。ワクチン接種の進展に伴って採用活動が活性化することが期待できる。
	□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・余り景気の良くない状況が続いている。雇用調整助成金の申請数をみても改善傾向はうかがえない。4都府県で緊急事態宣言が発出されたこともあり、なかなか景気が上向き兆しが見えてこない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における3月の有効求人倍率は0.87倍であり、3か月前と同率となっている。
	□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・2022年新卒採用における企業の動きについて、業種による違いが大きくなっている。観光関連、インバウンド関連は前年と同様に、非常に慎重な採用活動となっている。新型コロナウイルスの第4波の状況次第の面はあるが、大学生にとって厳しい状況は今後も変わらない。
	▲	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・新型コロナウイルス変異株感染者の増加に伴い、北海道及び札幌市によるゴールデンウィーク特別対策が打ち出されたことにより、行動、マインド共、下降局面に入っている。
	×	—	—	—